

洗掘および基礎構造技術基準に関する 日仏ワークショップを開催しました

2018年12月28日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）とフランスの国立研究機関であるフランス運輸・整備・ネットワーク科学技術研究所（以下、IFSTTAR）は、去る2018年11月27日から29日の3日間、フランスにて「洗掘および基礎構造技術基準に関する日仏ワークショップ」を開催しましたのでお知らせします。

鉄道総研は、2014年よりIFSTTARと共同研究および人事交流を行っており、また2017年には包括的共同研究協定書を調印し、現在以下の3件の共同研究・情報交換を実施しています。

- ・河川橋脚基礎の洗掘現象および土壌浸食特性の解明を目的とした調査研究
- ・基礎構造物および土構造物に関する日仏の技術基準の比較
- ・地盤ならびに動的相互作用問題の解析手法に関する情報交換

本ワークショップは、日仏の鉄道事業者も交えて、共同研究・情報交換で得られた成果の情報発信と、鉄道事業者の知見の共有を目的とし、鉄道総研、IFSTTAR および日仏の大学、研究機関、鉄道事業者から計30名が参加し、パリ市郊外のマルヌ-ラ-ヴァレにあるIFSTTARで開催されました。

ワークショップは、IFSTTAR コバリック専務理事と鉄道総研 太田防災技術研究部長の開会挨拶に始まり、3日間に渡って開催され、フランスからは洗掘リスク管理プロジェクトSSHEAR*の紹介、現場における洗掘管理の方法、洗掘に関するビッグデータ分析など計8件、日本からは日仏の洗掘危険箇所抽出方法の比較結果、洗掘モニタリング技術および具体的な被災事例の紹介など7件の講演が行われるとともに、洗掘・浸食管理と基礎構造物の技術基準に関する討議が行われました。

河川橋脚基礎の洗掘・浸食に関しては、日本の洗掘採点表とフランスの洗掘ガイドラインの内容、比較検証結果の他、洗掘事例、検査方法の紹介が行われ、日仏での橋りょう構造、河床、流速などの違いや検査方法の違い等について活発に議論が行われ、今後の洗掘採点表の改善の方向性に関する視点が得られました。基礎構造技術基準については、情報交換として、杭の鉛直載荷試験に関する日仏での相違点および共通点の整理が行われました。

IFSTTAR コバリック専務理事 開会挨拶要旨：

鉄道総研とIFSTTARは、システムをよりレジリエントで環境にやさしく、気象条件に適合したものとするために、多くの知識を共有し研究活動を向上させるために一緒に取り組んできた。今回は、橋脚回りの洗掘、浸食と土壌の特性に関する研究に焦点を当てる。会議室に限らずあらゆる場所で議論しプロジェクトが進んでいくことを期待している。

鉄道総研 太田防災技術研究部長 開会挨拶要旨：

今回浸食に関する意見を交換することで、それぞれの浸食のリスクに関する違いについて理解するよい機会となる。ワークショップを通してIFSTTARと鉄道総研および関係機関との協調関係がより密接になることを期待している。

※Soils, Structures & Hydraulics Expertise and Applied Research の略



ワークショップ会場風景（中央がコバリック専務理事）



会議参加者